



松 明

(平成30年1月発行・隔月発行) 2018 vol. 1



P4 新年初祈禱より

「平成30年 年頭のごあいさつ」

独立行政法人国立病院機構福島病院長 氏 家 二 郎



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

当院におきましては、昨年3月の周産期母子医療センター閉棟後、重症心身障害児（者）病棟を増床し、乳幼児を含めた幅広い層の患者さんを積極的に受け入れるとともに、レスパイト病床を新たに開設して、在宅医療・介護で頑張っておられる家族の方々を支援するなど、新たな医療を展開しております。周産期医療で培った緻密な診療と、永年引き継いできた障害児（者）に対する手厚い診療が見事に調和した素晴らしい診療体制への変遷を遂げたことを誇りに感じており、職員の皆さんの精励努力に敬意を表する次第です。

また、当院では昨年10月から神経内科の診療を開始しましたが、さらに本年4月には新たに2名の神経内科医師が就任することが決定しており、これにより筋・神経疾患や神経難病などに関する医療を大々的に展開していく体制が整います。これらの機運を活かし、全職員が

一丸となって質の高い医療を地域の皆さまへ提供し続けていく所存ですので、職員の皆さんのより一層の協力をお願いいたします。

さて、当院は昨年にもまた多くの暖かいご支援を受け、充実した1年を過ごすことができました。地域の方々には病院祭でのパフォーマンスや出店、病棟内でのボランティア活動、手縫いのタオルの提供など多くの援助を賜り、県外からもミュージック・シェアリングやプラネタリウムなどの慰問で来院いただくなど、当院は皆さまのご厚情で支えられていることを改めて実感いたしました。ここでご支援いただいた多くの方々に心より御礼申し上げますとともに、これに報いるため、診療体制の充実を図りつつ地域の病院や診療施設との連携を強化し、誠意のこもったより良い医療を提供していきたいと考えております。

本年も皆さまにとって最良の年でありますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

本号のご案内

- 平成30年 年頭のごあいさつ 1
- 戌年を迎えて 年男・年女より「今年の抱負」 2
- 地域医療連携室だより レスパイト入院のご案内 3
- 線維筋痛症とはどんな病気? 3
- 看護部だより 神経内科患者受け入れに向けての研修会を受講して 4
- 平成30年新年初祈禱について 4
- 第71回国立病院総合医学会に参加して 5
- 療育だより クリスマスイベント★ 6
- 防災訓練 ～病院編～ 7
- 健康プラザ MRI検査について 7
- 外来担当医表 8

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療で地域や社会に貢献」を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

成年を迎えて 年男・年女より「今年の抱負」



医局
診療部長
安田 千尋
(やすだ ちひろ)

●新年明けましておめでとうございます。

月日が経つのは早いもので、一日一日を精一杯過ごして参りましたところ、今年で5回目の年男、すなわち還暦を迎える年となりました。「今年の抱負」を問われて、改めて考えましたところ、これから老後を迎える身としましては、大層な望みもなく、一番の厄年を恙なく過ごす事ができれば幸いと思っております。その上で、何か形にのこるような仕事ができればこの上無い幸せかと存じます。もっとも、これまであんまり年齢を意識せず過ごしてきました。これからも、年齢を意識せず、いつまでも若い気でいることが、若さを保つ秘訣かと思っています。これからも皆さんと一緒に、楽しく仕事を続けていくことが、私の最大の望みであり、「今年の抱負」でもあります。みんなで一緒に、真摯に仕事を楽しみましょう！今年も福島病院と皆様にとって最良の年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



第1病棟
看護師
鴻池 あゆ美
(こうのいけ あゆみ)

●新年明けましておめでとうございます。

平成25年に入职し5年が経とうとしています。私はそれまでは他の病院で勤務していましたが子育てのために退職していました。再就職では仕事と子育てとの両立で、とても不安が大きかったのですが、病棟のスタッフの皆さんそして家族に支えられ、なんとか毎日働くことができていくことに日々感謝しております。

昨年からは神経内科の講義が始まり、スタッフの皆さんと一緒に資料作りをしたりと、新しいことを学ぶ機会となりました。難しい疾患ではありますが、しっかり学習し、来年度からの神経内科の立ち上げに、私もスタッフの一員として頑張っていきたいと考えております。

本年もよろしくお願い致します。



第6病棟
看護師
成田 好枝
(なりた よしえ)
看護師
大木 かすみ
(おおき かすみ)

●新年明けましておめでとうございます。

昨年は新生児集中治療室から重症心身障害児(者)病棟へ異動になり未知の世界に戸惑いの毎日を送っていましたが、重症心身障害児(者)病棟のスタッフの皆さんの温かいご指導で何とか過ごしてきました。これから病棟の患者さんの笑顔を沢山引き出せる看護を提供していきたいです。今年は年女!!1年間楽しく過ごしていきたいと思います。(成田好枝)

●明けましておめでとうございます

昨年、新生児集中治療室より重度心身障害児(者)病棟へ異動になりましたが、10年ぶりの異動という事もあり、期待と不安で日々精一杯で、あっという間に1年が過ぎてしまいました。今では、そんな不安もどこへやら毎日楽しく、患者さんと接して仕事をさせて頂いています。今年は少し余裕を持って看護に取り組んで行きたいと思っています。何より、健康第一に仕事とプライベートの充実が図れるよう目標を持って日々過ごしていきたいと思います。(大木かすみ)



リハビリテーション科
理学療法士
小田 拓也
(おだ たくや)

●新年明けましておめでとうございます。

福島病院に就職してからもうすぐ1年が経とうとしています。新社会人になり初めてのことが多いながらも先生方や上司、先輩からたくさんのアドバイスをいただきようやく仕事にも慣れてきました。また須賀川市での生活も初めてであり、知らない土地での生活は不安もありました。しかし町の人は温かく、食べ物もいいし、気候も過ごしやすいためとても快適に過ごすことができています。

昨年は新社会人として仕事に慣れることに精一杯で仕事のスキルアップがなかなか出来ていなかったように思います。そのため今年は研修会への参加や症例検討を行い、知識やスキルを深めていきます。そして福島病院の患者さんへ多く還元できるようにして充実した1年になるようにしたいと思います。

今年も1年間よろしくお願い致します。

地域医療連携室だより

レスパイト入院のご案内

地域医療連携係長 天 野 邦 子

重症心身障害児（者）の方とご家族をサポートするために、レスパイト入院の受け入れをスタートしました。これまでの**短期入所事業（ショートステイ）・日中一時支援事業**に**レスパイト入院**が加わり、この3つの中から選んで利用出来るようになりました。

レスパイトとは休息・息抜き・一時休止という意味です。家族の事情で一時的に在宅介護が困難になった時に短期入院を行います。入院中は小児科医が担当します。

重症心身障害児（者）医療の専門性を活かし、安心安全な医療と福祉サービスの提供にスタッフ一同努めております。

●その他、詳しくは
医療ソーシャルワーカーまでお問い合わせください。
☎ 0248 - 75 - 2279

ショートステイ・日中一時支援	レスパイト入院
障害福祉サービス受給者証 地域生活支援サービス受給者証	医療保険 (小児慢性特定疾患受給者証・特定医療費受給者証など)
受給者証の給付日数の範囲内	入院日数は応相談
診療なし	診療あり
体験利用あり（給付日数の範囲内）	体験利用なし（一般入院のため）

線維筋痛症とはどんな病気？

医療ソーシャルワーカー 小 林 律 子

昨年10月、アメリカの歌手、レディー・ガガさんが線維筋痛症のため活動休止を発表しました。日本でも推計200万人以上の患者がいるといわれながら、あまり知られていない線維筋痛症とはどんな病気なのでしょうか？

線維筋痛症とは、全身に痛みが起こる原因不明の病気です。その痛みは軽度のものから激痛まであり、耐え難い痛みであることが多いです。痛みの部位が移動したり、天候によって痛みの強さが変わったりすることもあります。重症化すると爪・髪への刺激、温度・湿度の変化、音、光、風などでも激痛や痺れるような痛みがはしり、日常生活に支障をきたします。

線維筋痛症は中高年の女性に多い病気です。そのため自律神経失調症や更年期障害、不定愁訴など他の病気と診断されることも少なくありません。重症化する前に、早めに受診することをおすすめします。

当院では、リウマチ・膠原病内科の専門医である佐藤由紀夫医師が線維筋痛症の診療を行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

線維筋痛症の診療について

●内 科●

佐藤由紀夫医師

第1・3月曜日 受付時間 8:30～11:00

●お問い合わせ●

地域医療連携室 ☎ 0248 - 75 - 2279

FAX 0248 - 75 - 2569

外来予約受付 ☎ 0248 - 75 - 2259

当院では、平成30年4月から神経内科の診療が本格稼働されることとなっており、現在、全職員で受け入れ体制の準備を進めております。

昨年10月と11月にわたり、神経内科の知識を深めるための研修会を全職員対象に行いました。福島県立医科大学神経内科の杉浦先生より、神経難病の病態・疾患の様子をビデオでの説明を交えながら、分かりやすく神経難病の基本的な看護について講義をしていただきました。受講した職員からは多数の質問があり、有意義な研修会となりました。また、研修内容をビデオ撮影し、当日受講できなかった職員へも、後日ビデオ学習会を行いました。

神経内科の入院患者さんを受け入れる第1病棟では、教育担当者のアドバイスのもと、職員自ら神経難病に関する資料を作成し、病棟で学習会を行い研修会に臨みました。さらに、院外研修として、平成30年1月から2月にかけて、国立病院機構岩手病院の協力をいただき、神経内科病棟の看護実践研修も行うこととなっております。

患者さんが安心、安全に医療が受けられるよう、これからも学習を重ねてまいります。

(※神経内科とは？……脳、脊髄、顔や手足の神経、筋肉の病気を診療する内科です。言い換えますと、考えたり覚えたりすること、体を動かすこと、五感を働かせて感じることに関する支障を診療します。)



平成30年新年初祈禱について

管理課 管理課長 葛西 幸治

1月4日(木)、年頭にあたり福島病院大研修室において、須賀川地方の総鎮守神炊館神社(おたきやじんじゃ)の宮司様にお越しいただき、新年初祈禱を執り行い、氏家病院長以下30名の職員が参列し、院内の安全、病院の発展を祈願いたしました。

新年最初の行事であり、厳粛な空気の中、修祓、祝詞

奏上、玉串奉奠の儀が行われると、1年が始まったんだなと身の引き締まる思いがしました。

平成30年福島病院は診療体制の変更もあり、節目の年となります。より良い医療を提供できるよう、一層の取り組みを行って参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



第71回国立病院総合医学学会に参加して

(香川県高松市、平成29年11月10日・11日)

栄養管理室 主任栄養士 西 舘 真 理

平成29年11月10日(金)～11日(土)に香川県高松市で開催された第71回国立病院総合医学学会に参加しました。

私は、『当院の嚥下造影検査における栄養管理室の取組について』ポスター発表を行いました。今年から、ポスター発表の媒体が変更になり、緊張しながらの発表でしたが、無事に発表を終えることができました。

嚥下造影検査とは、飲み込みの過程や状態を評価するための検査で、造影剤または造影剤を含む食事(模擬食)を使用して検査を行います。今回、栄養管理室では、検査に用いる模擬食の見直しを行いました。見直しを行ったことで、口から食事を食べられていない期間が長期の患者さんにも嚥下造影検査を行えるようになり、前年度比較で、検査の実施件数も増加しました。今後も嚥下造影検査に用いる模擬食について種類を増やし、患者さんの嚥下機能の評価に役立てるよう、努めたいと思います。

総合医学学会では、他職種参加の学会のため、様々な研

究発表を拝見し、多方面から物事を捉える良い機会を得られました。今回得た経験を今後の業務に活用していきたいと思います。

最後になりますが今回の発表で、ベストポスター賞に選ばれ、大変うれしく思います。これも、発表までの準備を含め、院長先生をはじめ、たくさんの方々に携わっていただいたおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。



栄養管理室 栄養士 柴 田 元

昨年11月10日(金)～11日(土)に香川県高松市で開催された第71回国立病院総合医学学会に参加してきました。私は当院で実施した食事の誤配膳を防ぐ取り組みについて発表しました。国立病院総合医学学会では全国で活躍されている医療職や事務職の方の取り組みを知り、さらに当院の取り組みを発表し普段関わりが少ない他部門からも意見をいただくなど、とても参考になる学会です。また香川県ということで本場の讃岐うどんも食べることが出来ました。

今回、私は初めての学会発表のため、とても緊張した状態で学会に参加しました。準備の際には抄録の添削や院内でのプレ発表等に多くの方々に助言をいただき学会発表をすることができました。また今回初めてeポスターという発表形式が導入され、内容は液晶画面を使用しスマホのような操作をしながら発表する方法でした。私も初めての発表方法のため画面を上手に操作が出来ず戸惑いながらの発表で、なおかつ初めての発表のため焦

りと緊張で満足のいく発表では正直なかったと感じています。しかし、他演者のポスターの文章配置や表や図の表示内容、eポスターの発表方法など今後の参考となることは多くとても実りある学会発表だったと思います。今回の学会の経験を今後の活動に生かしていきたいと思っています。





クリスマスチャリティ

療育指導室 主任保育士 天 内 奈津子

クリスマスが近づく 12 月 14 日木曜日、Wonder Art Production のホスピタルアートプロデューサー 高橋様とスタッフの方が重症心身障害病棟の患者さんにクリスマスプレゼントを届けにきてくださいました。この活動は、クリスマスを病院で過ごす患者さんに、温かい楽しい時間を届けたいと 2008 年よりはじまった「クリスマスチャリティ」で、今回は光栄なことに福島病院が選ばれました。全国の有志から集められ、ボランティアの皆さんが一つ一つ心を込めてラッピングしたプレゼントをいただくと、笑顔を見せる方、大切そうにプレゼントを持っている方、早速開けておもちゃで遊びだす方などそれぞれにとっても嬉しそうな表情を見せていました。その後も、プレゼントの中に入っていたハッピーボールを、ベッドサイドに飾って楽しんでいる患者さんも多数いらっしゃいます。

今回のご縁が、今後患者さんがアートの世界を体験する機会に繋がればと期待しています。

この度は、来院いただきありがとうございました。



クリスマス会

療育指導室 保育士 鈴木 遥 香

華やかな飾りつけでクリスマス一色となった重症心身障害児・者病棟で 12 月 20 日（水）クリスマス会が開催されました。クリスマス会では毎年、療育指導室スタッフ・須賀川支援学校の先生方に出し物をお願いしています。今年の出し物は、指導室スタッフによる合奏「ありがとう」・支援学校先生方による劇「卑弥呼とサンタとガンバリマン」です。「ガンバリマンはがんばるさ～」の歌で幕が上がります。なんでも凍らせてしまうスノーマン、そんなスノーマンを倒すための歌をみんなで考えました。心が温かくなる＝幸せな気持ちになるとみんなで歌ったのは「しあわせなら手をたたこう」。みんなで一緒に歌えば力も倍増！見事スノーマンを倒すことが出来ました。支援学校の先生ひとりひとりのキャラクターもユニークで、皆さんが吸い込まれるように見入っている姿が見られました。歌をうたい声を出す場面もあり、患者さん・ご家族も一緒に参加することのできる劇でし

た。体が縮むような寒い日が続いていますが、ご家族と患者さんの笑いに包まれたあたたかいクリスマス会となりました。須賀川支援学校の先生方ほんとうにありがとうございました。



防災訓練 ～病院編～

管理課 庶務係 齊藤 直美

平成 29 年 11 月 29 日（水）、夜間に重症心身障害児（者）病棟で火災が発生したという想定で総合訓練（通報、消火、避難誘導、情報収集）を実施しました。

夜間は日中に比べ配置職員数が少なく、今回の想定場所となった第3病棟では看護職員3名による夜間勤務態勢となっており、少ない人数で効率よく誘導し院内他部署からの応援を仰ぐことが重要となります。

訓練は概ね計画どおり実施することができ、終了後の講評では防火管理者である伊藤事務部長から「避難誘導で大切な事は、大きな声で指示・連絡を行うことが挙げられるが、当直師長、夜勤担当者、他病棟からの応援者ともに大きな声が出ていて、全体を通してよく行われていました」とコメントがありました。参加職員にとっては、日頃からの防災管理に対する意識が重要であると再認識する機会になったことと思います。

今回の内容を今後の防災管理に活かしていきたいと思っています。



健康プラザ

MRI検査について

放射線科 副診療放射線技師長 菅野典子

MRI とは Magnetic Resonance Imaging（核磁気共鳴画像）の略語です。簡単に言うと強力な磁石と電波を使用して、体の内部の状態を知ることができる装置です。狭いトンネルの中に入って検査をします。形が似ているものに CT といわれるものがあります。これは Computed Tomography（コンピューター断層撮影）の略です。両者の違いは、MRI が磁場と電波を使用した検査であるのに対して、CT はエックス線を使用し検査をするという点にあります。体の内部の画像に関してもそれぞれ特徴があって、臓器、疾患の違いや診断、治療目的により使い分けられます。どちらが優れているということはありません。

MRI の検査中は「ドンドン」「コンコン」「ビービー」といった様々な音がします。（これが結構大きな音です）この音は、傾斜磁場といわれる MRI の画像を作るのに必要な磁場を高速で切り替えるときに発生している音です。機械の故障と感じる方もいるようですが、心配はいりません。動かずに静かに横になって頂きたいと思

います。

また MRI 検査室には、検査時に発生する傾斜磁場のほか、24 時間 365 日発生し続けている「静磁場」というものがあります。検査中でなくとも磁場が発生しているため、金属等の持ち込みは「吸着」という事故につながりかねません。検査室に入る前、また検査の際には、診療放射線技師の指示に従っていただき、またご不明な点があれば遠慮なく質問して頂きたいと思っています。



●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【平成30年1月1日より】

区 分	月	火	水	木	金
内 科 1	安 田 千 尋	安 田 千 尋	小 杉 茂	大 戸 斉 ※	安 田 千 尋
内 科 2	佐 藤 由 紀 夫 (第1・3)			山 根 完 二	
検 査				安 田 千 尋	
神 経 内 科	熊 谷 智 広 (第3) ※再来のみ	根 本 和 夫 (予約制)			
小 児 科	石 井 勉 (2・4) 福 島 医 大	氏 家 二 郎 勉 石 井 二 郎 勉	廣 瀬 千 穂	氏 家 二 郎 大 福 島 医 大	河 原 田 勉
専 門 外 来 (発達小児クリニック)		氏 家 二 郎 勉 石 井 二 郎 勉			河 原 田 勉
専 門 外 来 (小児神経外来)	平 山 恒 憲 (第2)			石 井 希 代 子 (1・3・5) 加 藤 朝 子 (2・4)	
専 門 外 来 (小児循環器外来)			桃 井 伸 緒 (第2・4)		
小 児 専 門 外 来	予 防 接 種 (午後)		予 防 接 種 (午前・午後)		
整 形 外 科	古 川 浩 三 郎 (予約制)				
小 児 外 科		清 水 裕 史 (第1・3)		山 下 方 俊 (第2・4)	
小 児 心 療 内 科					星 野 仁 彦 (月1回)
脳 神 経 外 科		福 島 医 大 (第2・4)			

※神経内科、小児神経外科、小児心療内科は再来のみとなります。

※大戸斉先生の診療日についてはお問い合わせください。

●外来受付時間は8:30～11:00までです。急患については随時受付いたします。

●外来担当医表は平成30年1月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●4月から専用ダイヤルができました●

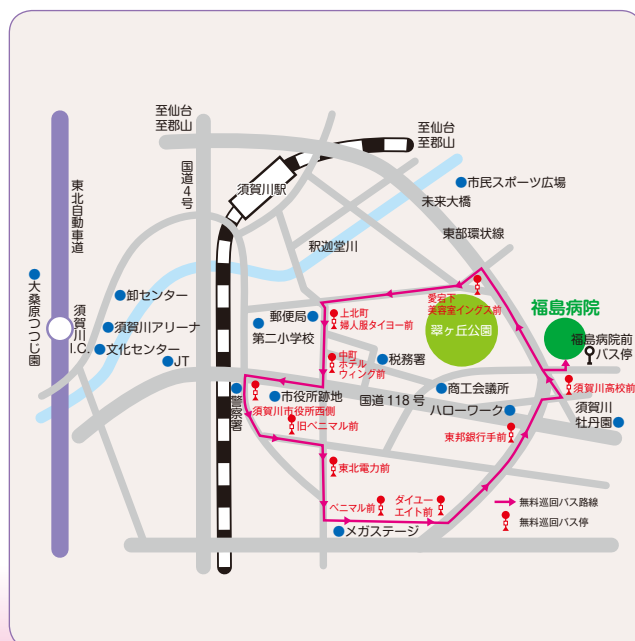
診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 8:30～17:15)

診療の予約・変更等 (月～金 13:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

明けましておめでとうございます。昨年は、病院全体として大きく環境が変わり、変動の年でした。今年は、目標を持って実現に向けて頑張りたい年にしたいです。皆さんは、今年はどんな年にしたいですか？もちろん、ワンダフルな一年(戌年)にしたいですね。(編集委員S)



Fukushima National Hospital
独立行政法人国立病院機構

福島病院

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<http://fukushima-hosp.com/>